

2010年6月1日

欧米の医療機器メーカー、新興国開拓加速

- * フィリップス---CTなど最新の医療機器をロシアで開発・生産、アフリカ15カ国で医療機器の販促活動
- * GE---中国で営業増員、簡易超音波診断装置開発
- * シーメンス---低価格装置開発し中国、インドなど販売

欧米の医療関連企業が新興国市場の開拓を一斉に強化し始めた。オランダのフィリップスはロシアで医療機器生産に着手。米ゼネラル・エレクトリック(GE)は中国での営業人員を拡大する。医療機器市場で最大市場の米国が医療保険制度改革によって不透明感が強まる一方、新興国で医療インフラ整備が進んでいることに対応する。今後、新興市場での基盤拡充を狙ったM&A(合併・買収)なども相次ぎそうだ。

フィリップスはロシアの医療機器メーカー最大手、エレクトロン(サンクトペテルブルグ)と、コンピューター断層撮影装置(CT)などの開発・生産で提携した。年内にも共同開発したCTを発売。X線や磁気共鳴画像装置(MRI)などの検査機器にも広げる。

GEは中国で医療機器の営業担当者を増員する。「今年は1000人を採用する」(ジェフ・イメルトGE会長)方針。同社の中国事業の売上高は60億ドル(約5500億円)。なかでも医療機器は成長分野の一つで、中国での同部門の売上高は10年に10億ドルを突破する見通し。

GEは昨年、医療機器事業の拡大路線を発表、15年までに研究開発の強化などに計60億ドルを投じる方針。新興国向けに携帯電話とほぼ同サイズの低コスト超音波画像診断装置も開発、インドやアフリカなどの市場開拓を進めていく。

独シーメンスも新興国向けに機能などを絞った低価格のX線装置やCTなどの医療機器を開発し、中国やインドで販売を強化する方針だ。

フィリップスなどの試算によると、10年の医療機器の世界市場の成長率は4~5%。欧米や日本は横ばいか微増にとどまるが、新興国は中国、インドでの需要増で10%近い伸び率が見込めるといふ。

今後、先進国でも医療費抑制によって低コスト機器の需要が増えるとの見方が支配的だ。中国の邁瑞医療国際(広東省)が米社の患者監視用モニター部門を買収するなど、新興国企業が先進国に本格進出するケースも出ている。

以上

=日経新聞=